

一般大学生における医療職への 説明希望度, 自己決定希望度, 支援希望度

奥田裕紀 (金城大学)

キーワード: 医療, 自己決定希望度, 大学生

問題と目的

Okuda (2016) は, 患者や施設利用者など医療の対象となる人 (対象者) が, 望ましいと思う “自己関与度” (医療職にどの程度詳細な情報を求めたいか, どの程度の支援を求めたいか, 医療に関する選択・決定にどの程度自分自身がかかわりたいか) に関して検討を行った。青年群, 中年群, 高齢者群の研究参加者に, 軽度, 中程度, 重度の病気やケガの場合において, 各々 13 項目からなる小自己関与項目群, 中自己関与項目群, 大自己関与項目群が, 望ましいと思う程度などを, 7 段階尺度で評定するように求めた。

年齢群×重症度×項目群の 3 要因分散分析の結果, 3 年齢群とも, 全ての重症度条件において, 中自己関与項目群の評定平均値が, 他群の評定平均値よりも有意に高く, 重度条件の場合に, 中自己関与項目群の評定平均値が最も高くなることが示された ($p < 0.05$)。しかし, この研究における各項目群には, 多様な項目が含まれており区分が困難であった。そこで本研究では, 病気やケガ, 検査・治療などに関する医療職への説明希望度, 自己決定希望度, 医療職への支援希望度を, 区分して評定を求め, 検討を行うこととした。

方 法

研究参加者 大学生 50 人 (18~21 歳) であった。本研究の目的や倫理的な配慮などについて説明した上で, 研究参加の同意を得た。

重症度条件の想定および評定 各研究参加者に, 軽度 (1 週間程度で完治する病気やケガ) の場合, 中程度 (1 か月程度の入院を必要とする病気やケガ) の場合, 重度 (生死にかかわるような重い病気やケガ) の場合を想定するように求めた。そして, 各重症度条件において, 12 の提示項目 (自分自身の病気やケガに関連する情報, 検査や治療の方針や方法など) について, 医療職による詳細な説明を希

望する程度 (説明希望度), 患者自身が自己決定を希望する程度 (自己決定希望度), 医療職の支援を希望する程度を (支援希望度) について, 各々 0~100 の数値を用いて, 各項目の評定欄に評定することを求めた。本研究では, 他の項目についても評定を求めたが, ここでは省略する。

結果と考察

重症度条件×評定項目の 2 要因分散分析の結果, 重症度条件, 評定項目の主効果, 交互作用は有意であった ($p < 0.05$)。また, 事後検定の結果, 説明希望度における各重症度条件の評定平均値間と, 支援希望度の軽度条件と重度条件の評定平均値間には, 有意な差異があることが示された ($p < 0.05$)。病気やケガの重症度が高くなると, 説明希望度, 支援希望度の評定平均値が高まったことから, 大学生群においては, 自分自身の病気, ケガの重症度が高まると, 医療職からより詳細な説明を求め, 支援をより多く求める人が多いことが示唆された。一方, 自己決定希望度に関しては, 病気やケガの重症度が高くなると自己決定希望度が高まる人や, 自己決定希望度が低下する人など様々な人がいたため, 各重症度条件間の差が有意水準に達しなかったことが示唆された。今後, 他の年齢群においても検討を行うことが重要だと考えられる。

